

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【V】
2 実施対象者	ひたちなか市立三反田小学校 全校児童144名（男子80名 女子64名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 体育 ） ② 行事名（オリンピック選手の話をお聴こう） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○ 様々な努力を重ね、何度もオリンピックに参加したトライアスロン選手の体験談を聞くことでスポーツに対する興味・関心を高める。 ○ オリンピアンと走る活動を通して、走る時のフォームや姿勢について学び、一緒に走ることによって「走ることの楽しさ」を体感する場とする。
5 取組内容	2004年アテネオリンピックから4大会連続でオリンピックに参加したトライアスロンの田山寛豪選手の体験談を聞く。また、走ることの楽しさを体験するために4年生以上の児童が実技を行う。 (1) 事前指導 オリンピックについての理解を深める。 ・オリンピックやパラリンピック関係の図書コーナーを設置しオリンピックやパラリンピックについての理解を深める。（学級活動・国語） ・田山選手の経歴（全校集会のお知らせ） ・トライアスロンの競技の特性（学級活動） (2) 当日 ① 田山選手のトライアスロンに対する思いを知る。 オリンピックの素晴らしさ 自分たちに今できることについて ② 田山選手の陸上（走）教室 走る時の姿勢など 楽しく気持ちよく走る 田山選手と競走





(3) 事後指導

講演会と実技を通して、学んだことやこれからの目標について手紙にまとめる。

<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none">○ オリンピックやパラリンピックについての興味・関心が高まった。(図書コーナーの活用)○ オリンピックに参加した経験を聴くことによって、どのような努力を積み重ねてきたのか理解することができた。○ 自分たちの生活の中で、目標をもって努力することの素晴らしさを知り、今できることについて考えることができた。○ オリンピアンに直接走り方のフォームを見てもらい具体的なアドバイスを受ける活動を通して、走ることの楽しさを感じる姿が見られた。○ 直接田山選手と競走する活動の中で、一人ではできなくても友達と力を合わせると大きな力になる楽しさを感じていた。○ 後日実施された校内持久走大会では、あきらめることなく児童一人一人が自己新記録を目指して頑張る姿が見られた。
<p>7 実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none">○ 田山選手の講演会と実技教室の計画と当日の運営。○ お礼の手紙の作成を6年生の児童が実行委員会を組織して取り組んだ。特に児童向けのお知らせの作成や図書コーナー作成などは委員会が役割分担を引き受け自主的に取り組んだ。○ 担当児童は、トライアスロンという種目の特性について、事前にインターネットなどで調べ講師紹介を行った。○ 後日校内持久走大会が予定されていたので、走ることの楽しさを体験できるようなプログラムにした。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none">○ オリンピックやパラリンピックにおける様々な種目について、インターネットや本、TVから情報を得ることができるが、直接生で見ることができない地域在住の児童たちへ興味・関心を持続させるための支援の在り方。○ パラリンピックの種目を見たり、体験したりするための教材の取得方法
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none">○ パラリンピックについて、6年生が「I'm POSSIBLE」で学習したので、さらに全校児童を対象に実施する。